



日々の学習を怠るな

7月の参議院選挙は、2度目の徳島・高知合区の選挙でした。投票率の低さも問題であるが、ある組織労働者から、「組合員との会話で、期日前投票に行ったが、比

例区は支持する候補がいる。が、選挙区は組織の指示がないから、だれを選べばよいかわからず白票を投じたという人が何人もいた」という話を聞いた。比較的活発に運動している組織であるだけに、指示待ち症候群もここまで来たかと驚いた。自分の周りにいる組合員は、「野党といっても、主義主張だけではどこがいいのか、判断がつきかねる。耳ざわりのいいことばかりを謳っている」という。

連合は自主投票を決め込み、野党共闘で決定した共産党出身の無所属候補は、組織労働者から無視されたに等

しい扱いを受けた。この状況を喜ぶのは誰なのか、想像力を働かせ、自分自身の頭で考えるという事は不可能なのだろうか。

教育・学習の放棄は、労働者階級の自壊を招くことを証明している。

改憲勢力の3分の2越えは届かなかつたものの、今回も与党の「勝利」で終わり、安倍は憲法改悪のために今後衆議院解散も辞さない構えだ。だが、私たちはそれを手をこまねいて眺めているわけにはゆかない。歴史を正しくまなび、連帯し、民主主義を破壊しようとするすべての勢力に対抗しよう。

日々の学習は行動するためのものである。

労働大学企画編集委員 竹内 依子